

令和6年度第1回地方独立行政法人桑名市総合医療センター評価委員会

令和6年7月8日（月）

【梅山（保健医療課課長）】 こんにちは。保健医療課の梅山と申します。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

では、定刻より少し早いですけれども、委員の皆様もおそろいになりましたので、ただいまより令和6年度第1回地方独立行政法人桑名市総合医療センター評価委員会を開催させていただきます。

委員の皆様には、お忙しい中、御出席いただきまして誠にありがとうございます。

では、すみません、座って失礼いたします。

会議に先立ちまして、桑名市保健福祉部長の堀田より御挨拶申し上げます。

【堀田（保健福祉部部長）】 皆さん、こんにちは。保健福祉部長、堀田でございます。

本日は、大変お忙しい中、桑名市総合医療センター評価委員会に御出席いただきまして誠にありがとうございます。

また、委員の皆さんには、地域医療をはじめ、市政各般にわたりまして、格別の御理解と御協力を賜りまして、重ねてお礼を申し上げます。

さて、昨年度、委員の皆様には、総合医療センターの中期目標、中期計画を度重なる御協議いただきまして、完成させていただいたことに感謝を申し上げさせていただきます。

今年度からは、この目標と計画を基に、さらなるDX及び医療水準向上と業務の効率化、最適化を図るとともに、将来にわたり持続可能な医療が提供できるよう総合医療センターと連携しながら取り組んでまいりたいと考えておりますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

本日は、令和5年事業年度の業務実績につきまして、御協議をいただくこととなりますが、委員の皆様には、忌憚のない御意見をいただくことをお願い申し上げまして、簡単ではございますが、冒頭の挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

【梅山（保健医療課課長）】 続きまして、これまで出席していただいております西村委員より辞任の申出がございましたため、今回、新たに御参加いただきます委員を御紹介させていただきます。

6月26日付で、桑名医師会長に就任された玉井琢也様でございます。

では、玉井委員より一言御挨拶を頂戴いたしたいと思います。

【玉井委員】 桑名医師会の玉井でございます。

この評価委員会の結果は、理事会のほうで、毎回、説明を受けておりますが、参加させていただくのは初めてですので、何とぞよろしくお願いいたします。

【梅山（保健医療課課長）】 ありがとうございました。

続きまして、桑名市総合医療センターの病院長に交代がありましたので、御紹介させていただきます。

令和6年4月から新たに病院長に就任されました山田典一様でございます。

【山田（桑名市総合医療センター病院長）】 よろしくをお願いします。

今年の4月に病院長を拝命いたしました山田典一と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私の先任の市川先生と、それから登内先生の御尽力もありまして、平成30年5月に新しい病院として開院したわけですが、非常に病院一丸となりまして、チームワークよく順調に稼働しておりまして、お二人の病院長のおかげをもちまして、軌道に乗った病院経営ができていると思いますので、この勢いを衰えさせることなく高いレベルの医療を提供しつつ、安全かつ安心な病院ということで、市民の皆様方からのますますの信頼が得られるように努力していく所存でございますので、どうぞ御指導のほう、よろしくお願いします。

【梅山（保健医療課課長）】 ありがとうございました。

なお、桑名市総合医療センターの竹田理事長様につきましては、本日、所用により欠席となりましたので御報告いたします。

本日の議事に入ります前に、今回の評価委員会のスケジュール予定について御説明させていただきます。

今回は、例年より1日多い3日間を予定しております。

初めの2日間につきましては、昨年と同様に、前年度である令和5年度に関する評価をお願いいたします。

その後、令和元年度からの第3期中期目標期間が令和5年度末に終了したことから、引き続き、中期目標期間に係る評価を予定しております。どうぞよろしくお願いいたします。

会議の資料につきましては、委員の皆様には、事前にお配りをさせていただいております。

すが、お持ちでない場合や資料の不足等などがございましたら、会議中でも構いませんのでお知らせをお願いいたします。

なお、机上に本日の新しい席次表を配付させていただきました。

次に、本日の議事進行について御説明させていただきます。

主に使用するのは、令和5事業年度、2023年4月から2024年3月に係る業務実績報告書でございます。こちらのA3の横のものになります。そのほかに、参考資料1、業務実績報告書の構成というものになります。あと、参考資料2として、地方独立法人の評価の基準をお出しいただければと思います。

まず、初めに、参考資料1、業務実績報告書の構成を御覧ください。

A4の縦の表でございます。

令和5事業年度の業務実績報告書にある大中小の項目と、それに対応するページ及び法人の自己評価でございます。

大項目としましては、第1から第8までございます。その中で、評価項目については第1から第3でございます。

評価の基準につきましては、5段階評価となっており、2であれば、年度計画に対して、十分に実施できていない、3につきましては、年度計画を順調に実施している、4につきましては、年度計画を上回っている、5につきましては、年度計画を大幅に上回って実施しているとなっております。

評価の流れとしましては、まず、事務局より、総合医療センターの業務実績と自己評価について、最初に見ていただきましたA3の表を基に簡単に説明した後、委員の皆様より御質問や御意見を伺い、評価いただく流れでございます。

なお、説明につきましては、大項目1は中項目ごとに、大項目の第2及び第3は、大項目ごとにいたします。

評価につきましては、大項目1は小項目ごとに、大項目2は中項目ごとに、大項目3は大項目で評価をお願いいたします。

なお、本日の委員会は、午後3時頃までを目安として終了し、それ以降は、次回にお願いしたいと考えております。

それでは、ここからは、豊田委員長に会議の進行をお願いいたします。

【豊田委員長】 それでは、御指名がございますので、司会、進行をさせていただきます。

今年度は、令和5年度の事業の評価と、それと、ちょうど中期目標期間が終わりますので、5年間の全体を通した評価もごございます。そんなことでよろしくお願ひしたいと思ひます。

それから、玉井先生、初めてということで、ぜひ遠慮なく、質問していただきまして。

【玉井委員】 よろしくお願ひします。

【豊田委員長】 もう全然遠慮する必要はございませんので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、時間も限られておりますので、早速ですが、令和5事業年度の業務実績に入りたいと思ひます。

それでは、事務局より業務実績報告書の説明をお願ひいたします。

【梅山（保健医療課課長）】 ちょっとマイクは使わずにしゃべらせてもらいますので、もし聞きづらいところがございましたら使わせてもらいますので、おっしゃってください。お願ひいたします。

それでは、令和5事業年度に係る業務実績報告書の内容につきまして、御説明いたします。

まず、1ページ目をお願ひいたします。

令和5年度における桑名市総合医療センターの概要です。

1の現況、⑤役員の状況につきまして、令和6年3月31日現在ですが、前年度から変更のある箇所として、今井理事が新たに就任しております。

また、右の別表中、主な役割及び機能において、三重県から認定を受けた女性が働きやすい医療機関と、日本医療機能評価機構による病院機能評価の認定病院を追記しております。

2ページをお願ひいたします。

全体的な状況としましては、1、法人の総括と課題では、5月の新型コロナウイルス感染症の5類移行後も、引き続き、適切な診療体制、感染対策を実施し、陽性患者の入院受入れ等を行いました。

また、DXに取り組み、スマートフォンで自分の医療情報を参照できるパーソナル・ヘルス・レコードのアプリに診療費の後払いができる機能を追加し、サービス向上に努めました。

そのほか、公益財団法人日本医療評価機構が実施する診療やケアに対する評価、病院機

能評価の認定を受けました。

経営状況としましては、令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が5類化したことに伴い、コロナ病棟の専用病床40床を一般病床とし、感染対策を施しながら一般患者を受け入れています。

延べ入院患者数は前年度を上回り、医業収益は128億5,300万円となり、当期純利益は、マイナスの2億1,600万円と赤字決算ではあったものの、予算計画を上回っております。

今後、さらなる医業収益の確保と、必要な医療機器等の更新を行い、また、経費削減に努め、安定した経営基盤の構築を推し進めます。

次の2、大項目ごとの特記事項につきましては、評価していただく4ページ以降の各項目で、順次説明をさせていただきます。

それでは、4ページをお願いいたします。

項目別の状況でございます。

大項目の1につきまして、中項目ごとにまとめて説明させていただきます。

大項目第1、住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置、中項目1、医療の提供、小項目（1）重点的に取り組む医療の実施です。

法人の自己評価としまして、a）救急医療では、輪番病院として二次救急医療に従事しており、脳卒中センター及び循環器センターでは、365日24時間体制を継続しております。救急の搬送患者の受入れ件数は4,443人でした。計画値には至りませんでした。が、前年度より増加をしております。

b）がん医療では、放射線治療件数は前年実績、計画値を下回りはしましたが、がん手術件数、全手術件数、外来化学療法について、前年実績値及び計算値共に上回りました。

また、手術支援ロボット（ダヴィンチ）を使用した症例数が、4年度は下期の27件から令和5年度は通年で67件と増加しました。

そのほか、小中高生や地域へのがん予防啓発を実施しております。

c）脳血管障害、循環器疾患、消化器疾患、運動器疾患につきましては、日本脳卒中学会による一次脳卒中センター（PSC）コアの認定を受けたほか、脳卒中センター市民公開講座を開催しました。また、循環器疾患における心臓リハビリテーションや、下肢虚血に対するカテーテル治療、消化器疾患での上部及び下部の内視鏡検査について、それぞれ

増加をしております。

次に、d) 周産期医療及び小児医療では、NICU 12床を運用し、24時間体制でのハイリスク妊婦の救急受入体制を整え、本年5月には、地域周産期母子医療センターに認定されました。

母体搬送件数、NICU入院件数、小児の外来件数では、計画値には至っておりませんが、実績件数は前年と同数か、またはこれを上回っております。また、分娩件数、小児の入院及びレスパイトの入院件数につきましては、前年実績及び計画値共に上回りました。

以上のことにより、小項目1、重点的に取り組む医療の実施につきましては、総合的に見て年度計画を上回っているとし、法人の自己評価は4となっております。

続きまして、8ページをお願いいたします。

小項目(2) 地域医療連携の推進につきましては、紹介率92.3%、逆紹介率127.7%となっており、共に計画値を達成しました。

地域連携パスについては、運用を推進し、前年度実績と比較し、脳卒中では増加、大腿骨頸部骨折は同程度になり、共に計画値を達成しています。

また、地域連携検査については、MRI、CT、RIいずれも計画値を下回っています。

以上のことから、総合的に見て、年度計画を大幅に上回って実施しているとし、法人の自己評価は5となっております。

続きまして、10ページをお願いいたします。

小項目(3) 災害時及び重大な感染症の流行時等における医療協力でございます。

地域災害拠点病院として、年2回の防災訓練の実施に加え、桑名医師会の災害救護訓練、三重県等が行う情報伝達訓練に参加したほか、DMATの災害時派遣に備えた訓練や、内閣府主催の大規模地震時医療活動訓練に参加しております。

なお、1月に発生しました能登半島地震では、発生日の翌日より、被災地へDMATを派遣し、また、災害支援ナースの派遣を行いました。

三重県とは、「災害支援ナースの派遣に関する協定」及び「改正感染症法に基づく医療措置協定」を締結し、併せて、第一種協定指定医療機関及び第二種協定指定医療機関に指定されております。

以上のことから、年度計画を大幅に上回って実施しているとし、法人の自己評価は5となっております。

以上が、中項目1の説明となります。

評価等よろしくお願いいたします。

【豊田委員長】 ありがとうございます。

中項目、医療の提供につきまして、3つの小項目がございまして、それぞれ自己評価、病院さんの自己評価は4点、5点、5点ということでしたが、この自己評価も参考にいただきまして、評価委員会として何点が妥当かということを御検討いただきます。

最初にも御説明がありましたように、5点というのは年度計画を大幅に上回って実施している、4点が年度計画を上回って実施している。3が年度計画を順調に実施している、2が年度計画を十分に実施できていない、1が年度計画を大幅に下回っていると、こういうふうな判断基準になっております。

では、いかがでしょうか。

特に、玉井先生、全く初めてなので、御遠慮なく質問があればしていただいて結構ですし、いかがでしょうかね。

まずは最初の、1個ずつ、やっていきましょかね。

最初の4ページ目、重点的に取り組む医療の実施、これは4点ということで、年度計画を上回って実施しているという自己評価をしていただいております。

それで、計画値が書かれておりまして、幾つかの計画値がありまして、それをかなり上回って実施している計画と、計画値には至っていないものもございます。そして、また、昨年度の実績、令和4年度の実績と比べてどうだったのかということも、評価の非常に重要なポイントになろうかと思います。

そんなことで、総合的に判断をしていただきたいわけですが、いかがでしょうか、4点ということではよろしいでしょうか。

何か御質問なりございませんでしょうか。

【玉井委員】 すみません、僕もちょっと勉強不足であれなんですけれども、この評価の仕方というのが、計画の数値との比較というふうに書いてあって、それを教えてもらったんですけれども、この中で見ますと、それを大幅に上回っておるやつもあるし、例えば、救急の搬送なんかは4,500を計画しておったんですけれども、4,400ぐらいだった、若干下回っていますね。ただ、前年度と比較しますと200も増えておるというようなところがありますので、どういうふうな判断をしていいか、ちょっと僕も分かりかねるところがあります。

一応、この5年度だけでの計画と実績で、マル・バツとか打ってみる。そうすると、バツもあるんですよね。だから、そこら辺と去年からの実績等を踏まえてというふうなところを重視するのかどうかというところで、もしそれを、去年の実績と今年の実績とを比較してというのであれば、僕は4がいいと思うんですけども。

【豊田委員長】 ありがとうございます。

まさに評価のポイントを御指摘いただいたと思います。

それで、先ほどの玉井先生の御質問といいますか、御指摘のようなことは、また、後ほども結構たくさん出てまいります。その辺りをどうするか、厳密に数値、計画値を単純に下回っていたら、それでもって評価するのかどうかと、昨年の実績値と比べるというのも1つの大きなポイントですし、また、その計画値なるものが一応決められているわけですが、本当にこの計画値が根拠を持って適切な計画値を立てていらっしゃったのかということも問題になるわけです。

そういうことを総合的に判断して、この評価委員会が、そういうことも斟酌して最終的な判断はさせていただくと、まさにそういう一筋縄では決められないところを決めていただくのがこの評価委員会の役目ということになります。

じゃ、玉井先生は4でいいんじゃないかということですけど、ほかの先生、いかがでしょうか。

【伊佐地委員】 サービスなんですけれども、計画値を立てている診療と立てていないところもありますよね。計画値を立てる目標が、例えば、循環器疾患とか消化器疾患は立てているんですよね。だけど、そこに関しては、前年度との比較でかなり増えておるとい、例えば、内視鏡とか増えていますからね。だから、私も4でいいと思います。

ただ、放射線治療の計画、例えば、なぜ4,000件にしたのかというこの根拠も、放射線よりもがん化学療法が増えた、これ、なかなか疾患によって違いますので、必ずしも4,000という計画値が本当によかったのかということもあるのかなと私は思いますので、それと、あと前年と比べるとそれほど変わっていませんので、放射線治療自体が増えるような疾患が少なかったんじゃないかなという、そういうふうなことも思います。ですから、私は4でいいとは思いますが。

【豊田委員長】 ありがとうございます。

ほかの先生方、いかがでしょうか。

【永藤委員】 私も、前年実績を上回るという項目が多いので、確かに、計画よりも下

がっているのもあるんですけど、そういう観点からすると4でもいいんじゃないかなと思います。

【豊田委員長】 森下委員も4でよろしいでしょうか。

【森下委員】 一部入院患者さんのところで、ちょっと前年下回ったところも出ているので、ちょっと気にはなりますけど。

【豊田委員長】 入院患者さんの。

【森下委員】 入院のところの、現状から行けば、入院延べ数は、ある程度伸びていくか、もしくは目標値を達成というのが、いいんじゃないかなと思っていますので、ちょっとここは気になるけど、ただ、全体としては、やはりいい数字に上げてきてもらっているなという気がいたしておりますので、4で結構かと思います。

【豊田委員長】 それでは、評価委員会の評価も4ということにさせていただきます。

次、8ページの地域医療連携の推進でございます。

これは、自己評価5ということで大幅に上回ったという自己評価をしておられますが、いかがでしょうか。

これは、私がいつも感心するんですけど、この逆紹介率というのはすごく高くて、昨年も115%あったんですが、昨年といいますか、令和4年度にですね。

令和5年度には127.7%にさらに増えているということで、すごいないつも思っ
て感心させていただいているんですが、玉井先生、医師会の現場の感覚として、これ、桑
名市総合医療センター、このように、地域との連携、紹介率も非常に高くて、かつ、逆紹
介率も極めて高いわけですが、現場の実感としてどのようにお感じになっていきますでし
ょうか。

【玉井委員】 先生のおっしゃるとおりだと思います。送った患者は必ず戻していただ
けますし、それ以外の患者さんで、近くにあるような、みえるような方の場合も紹介して
いただけると、非常に効率的にさせていただいています。

【豊田委員長】 ありがとうございます。

ということで、そのほか地域連携パスも計画値を上回っておりますし、検査の量がちょ
っと下回っているわけですが、しかしながら、逆紹介率が非常に高くて、医師会さんの現
場でも非常にかん治療センターの地域との連携は評価はさせていただいているようすし、
5点ということでもいいのではないかと思います、いかがでしょうか、よろしいですか。

では、これは5点とさせていただきます。

次に参ります、10ページの災害時及び重大な感染症の流行時等における医療協力でございます。

これも、自己評価5点となっておりますが、いかがでしょうか。

先生、ご意見ございますか。

【玉井委員】 ここは、これに関しては、平時からのいろんな災害時の備えをしていただいていますし、今年なんかは、特に1月の能登半島の地震ですぐに対応してDMATを送っていただいたりとか、災害支援ナースを送っていただいているように、非常に迅速な行動をしてみえるということで、これ、僕、5点だと思います。

【豊田委員長】 ありがとうございます。

この項目につきましては、数値目標は書かれていないわけですが、記述的な目標になっているわけですが、先ほど玉井先生がおっしゃいましたように、やはり、今回、能登半島地震でDMATも迅速に送っていただいたということが、高く評価されるというふうに思っています。ですので、5ということによろしいでしょうか。

では、これ、5とさせていただきます。

では、事務局から説明をお願いします。

【梅山（保健医療課課長）】 ありがとうございます。

それでは、11ページをお願いいたします。

中項目の2、医療水準の向上について、順次、御説明いたします。

まず、小項目（1）デジタルトランスフォーメーションの活用です。

令和5年5月より、画像や検査結果、処方などの医療情報を、スマートフォンを用いて参照できるサービス、PHRを開始し、12月からは医療費の後払い機能を追加し、患者の利便性向上を図りました。

また、三重大学のAI診断支援ソフトの利用や相互の教育のため、ダビンチによる手術動画のリアルタイム共有を開始しました。そのほか、電子処方箋の試験運用を開始しました。

以上のことから、年度計画を上回って実施しているとし、法人の自己評価は4となっております。

次に、小項目（2）地域住民の健康管理です。

令和5年度の年度計画から新設された項目になります。

退院患者の在宅での最適な治療計画、治療方針を立て、地域の看護・介護サービスと連

携を取りながら在宅診療を行いました。

法人の自己評価は、年度計画を十分に実施できていないとし、2となっております。

12ページをお願いいたします。

小項目（3）高度・専門医療への取り組みです。

地域の中核病院として、循環器センター、消化器センター、脳卒中センターを運用しており、多職種や複数の診療科と連携し、高度専門的な医療に取り組んでおり、循環器カテーテル治療は、前年度比85件の増加、外科手術、脳外科カテーテル手術は、前年度と同程度となっております。

以上のことから、年度計画を上回って実施しているとし、法人の自己評価は4となっております。

13ページをお願いいたします。

小項目（4）医師の確保について、医師業務の負担軽減として、医療技術職による診療補助やシステム活用による業務の簡素化、効率化、また、医師事務作業補助者による業務分担を行いました。

また、三重大学との連携により、血液内科と精神科に常勤医師の各1名が確保できました。そのほか、女性医師の育児支援や職場復帰支援については、6人の利用がございました。

令和6年3月末の医師数は108人でございます。

以上のことから、年度計画を上回って実施しているとし、法人の自己評価は4となっております。

次に、14ページをお願いいたします。

小項目（5）研修医の受入れ及び育成です。

初期研修医のマッチング数は14人、専攻医（後期研修医）の在籍数17人を確保することができました。

以上のことから、総合的に見て、年度計画を上回っているとし、法人の自己評価は4となっております。

次に、小項目（6）看護師の確保及び定着でございます。

積極的な実習受入れを行い、令和6年4月に計28人の看護師・助産師を確保できました。また、介護福祉士の夜間配置による業務負担軽減、院内保育園において専用厨房による給食提供を行いました。

離職率につきましては、看護師 7.3%、新入職看護師では 3.8%と低く抑えることができました。

以上のことから、年度計画を上回って実施しているとし、法人の自己評価は 4 となっております。

ここまでが中項目 2 の説明となります。

評価、よろしくお願いいたします。

【豊田委員長】 それでは、また、評価をお願いしたいと思いますが、この中項目につきましては、計画値とか、数値目標がほとんど書かれていないとか前年度の実績もはっきりしていない項目が多くて、評価委員会としては、ちょっと判断しづらいものも含まれているかもしれません。

毎年、評価委員会が評価しやすいように年度計画をおつくり願いたいという要望は出しているんですけど、この中項目については、ちょっと評価しづらい項目が含まれているかもしれません。

まず、11 ページのデジタルトランスフォーメーションの活用、自己評価 4 ということですが、いかがでしょうか。

【森下委員】 すみません、ちょっと質問なんですけれども。

【豊田委員長】 どうぞ。

【森下委員】 医療情報を参照できるサービスを開始した、あるいは、医療費の後払い機能を追加したというのが出ているんですけど、これ、実数的に利用者の数とか分かりますか。

【豊田委員長】 どうぞ。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 総合医療センターの管理部の中村です。よろしくお願いいたします。

実績としましては、あまり大きく伸びてはいないんですが、例えば、2024 年の 4 月の実績で、総外来患者数は 1 万 6,566、そのうちクレジットカードの利用者が 4,914 人、うち 9.8%の 483 人が後払いを選択されたということで、外来患者の 2.9%ぐらいが後払いになっております。

大体、月では 3%前後で推移していますので、もう少し伸ばしたいというふうに私ども考えておまして、ちょっと外来の会計待ちしている人を対象に、少し PR していこうかというふうに考えております。

以上でございます。

【豊田委員長】 ほかに御質問、永藤さん。

【永藤委員】 今のお話で、実際、確かに利用者は少ないですね。利用している人もいるようですが、患者様の声というか、実際に後払い。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 もともと診察が終わって会計に書類を出して、そこから待っている時間がすごく長かったものですから、利用している方にとっては非常に便利だというふうに言っています。

今まで、お昼に間に合わなかったのに、お昼が食べられるようになったとか言われているんですけども、なかなか、まずクレジットを使われる方が、そこからアプリをスマートフォンに入れて、クレジットカードを連動させるというところにちょっと抵抗のある方もおみえになりますし、付きっきりでインストールしたりしているんですけども、なかなか御高齢の方は、まだ普通のこういう携帯を持ってみえる方もみえるので、もう少ししっかり推奨していきたいなというふうに考えております。

【豊田委員長】 どうぞ、院長先生。

【山田（桑名市総合医療センター病院長）】 私、なるべく患者さんの使用率を上げようと思って、外来で、各患者さんにもお勧めしているんですが、患者さんの中には、物すごくきちょうめんで、血圧とか脈拍とか、体温とか、もう毎日細かくつけて持ってくるような方もみえるので、そういう方は、スマホを、自分の採血のデータとかも全部、経時的に見えますし、非常に便利だねという好評の御意見をいただいています。

ただ、高齢者の方にそれが応用できるかと言うと、ちょっとその辺り、問題があるかなというふうに感じております。

【豊田委員長】 そうしますと、これ、4点というのは年度計画を上回って実施しているということですが、年度計画を上回っている部分というのは、どこになるのでしょうか。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 そもそもこのPHRといいますのは。

【豊田委員長】 PHR。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 パーソナル・ヘルス・レコードといいますのは、三重大学さんのほうから一緒にやらないかという声かけをいただいてから。

【伊佐地委員】 NOBORI というやつですね。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 そうです。NOBORI です。

【伊佐地委員】 私も最近入れました。あれ、便利ですけど。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 非常に便利ですね。

【伊佐地委員】 あれ、面倒くさいね。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 それまで、あまりDXの分野について、積極的にやれていたところというのは非常に少なく、せいぜい電子カルテを入れているくらいしかなかったんですが、ここにも書かせていただいたとおり、PHRも始めて、内視鏡とかダビンチの遠隔操作とかということに取り組んでいますので、他の公立病院よりは少し進んでいるかなということで、この自己評価をさせていただいたということです。

【豊田委員長】 他の病院よりも進んでいるというところで。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 少しは進んでいると思います。

【豊田委員長】 4点にしたということですが、いかがです。

【伊佐地委員】 僕、実際に使っているんですけど、便利、入ると便利ですね。ただ、そういう意識のある人は、なかなかアプリをダウンロードして、それをさらに申請して、そこで認めてもらってから始まるというそういうシステムが結構。

【白石（桑名市総合医療センター副理事長）】 ダウンロードとかそういう動くようになるまでですね。

【伊佐地委員】 そうそう、それだけ、一応。

【白石（桑名市総合医療センター副理事長）】 窓口をつくってしまして、何番に行ってくださいというと、その係の人間が全部やってくれるので。

【伊佐地委員】 今後どうなっていくかというのが。だから、評価、なかなか難しいですね、来年ぐらいだったらもうちょっと。

【豊田委員長】 そうそう、来年ぐらいだと、もうちょっと利用者が、もうちょっと増えていただくと、非常に高い評価になるんだろうと思います。

【伊佐地委員】 3%増えたとか、ゼロからの出発ですから。

【豊田委員長】 ゼロからの出発ですと、今回はね。

【伊佐地委員】 そういう意味ではできたということ。

【豊田委員長】 そういう意味ではできたと。

【伊佐地委員】 来年はちょっと厳しくなるんじゃないですかね。

【豊田委員長】 じゃ、どうでしょう。

4点で、一応、3点のほうが妥当じゃないかという方もいらっしゃるかも知れませんが、一応、4点ということにさせていただきたいと思います。

次は、地域住民の健康管理ということで、在宅医療になるんですかね。

これが2点ということですが、いかがでしょうか。

何か御質問、御意見などございますでしょうか。

【伊佐地委員】 3点でもいいのかなと。

【森下委員】 具体的に2にした理由は。

【山田（桑名市総合医療センター病院長）】 これは、もともと在宅医療に、うちとしても力を入れていこうということで、昨年は在宅診療部というのを立ち上げたんです。そのときに中心になっている若い医師2名がいたんですが、ちょっとなかなか思ったように在宅診療の対象になる患者さんの数が増えなくて、一番多いときで、多分、4、5名ぐらいの状態がずっと持続しておりまして、思ったほど活用し切れていないということもあったものですから、ちょっと辛めの2ということにさせていただいております。

【豊田委員長】 在宅診療、桑名市医療センターがやるべき分野であるのかどうかという、そもそも論もあろうかと思うんですよね。それ、医師会さんとの関連もありますし、また、総合診療医という分野もありますので、その辺りをどういうふうに考えていくか、フィロソフィも関係するかもしれないのですが、その辺りはどうなんでしょうか。

【山田（桑名市総合医療センター病院長）】 その辺りは、かなり医師会の先生方とも話し合いはしたんですけれども、少なくとも若い医師らの意図するところとしましては、自分が入院で診ている患者さんが、その後、退院した後も、やはりある程度自分たちでフォローしていきたいという希望がかなり強かったものですから、その辺りを医師会の先生方にも、当院で入院で加療した患者さんだけで、手広く地域からそういった患者さんを募るということはやめますので、どうかさせていただきませんかということで始めたんですが、やっぱり患者数は全然増えなかったということでもあります。

【豊田委員長】 玉井先生、どうですか。

【玉井委員】 確かに、この件に関しては、前々会長、青木先生のときに話が進んだやつと思うんですけど、もともとは2人の先生が、個人的にやりたいということから始まったということを聞いたんですけど、それであれば、あまり伸びませんよね。

【山田（桑名市総合医療センター病院長）】 そうですよ。

【豊田委員長】 だから、これは2点でいいのじゃないかというような、次回への改良点を残したままで。この項目についてはあんまり、桑名市総合医療センターがこれから力をどんどん入れていくということではないので、自己評価2点ということであれば、2点

でいいのかなと。

じゃ、2点ということにさせていただきます。

次が、高度・専門医療への取組みですかね。

これも数値が計画に書いてないので、ただ、実施状況には数値が書いてあるわけですが、前年度と比べてどうだったんでしょうか、この辺の数値は。前年度と比べて増えていることですね。

【山田（桑名市総合医療センター病院長）】 そうですね。前年度と比べて、特に循環器のカテーテル件数が増えていますし、外科の件数はほとんど横ばい、いや、微増ですし、脳外のカテーテル検査は、同程度ということで、特に突出して増えているのは、件数ですね。件数が随分と増えていっている。

年々、この循環器のインターベンションの件数は増えておりまして、その辺りもちょっと評価いただきたいということで、4点という数字をつけさせていただきました。

【豊田委員長】 前年度と比べたら増えていると、ですので、これ、今までの項目では前年度の実績の数値が載ってございましたよね。それもここに書いていただくと、評価委員としては、判断しやすいということだと思いますので。

いかがでしょうか、4点ということで、よろしいでしょうか。

【永藤委員】 実績が増えている。

【豊田委員長】 実績が増えているということですのでね。

では、4点ということにさせていただきます。

次が、13ページの医師の確保ですね。

これも前年度の実績がどうだったかというのを書いていただくと、ちょっと分かりやすいかなというふうに思いますが、医師につきましては108人、専攻医を含んで、研修医を除く人数が108人ということで、しっかりと確保しておられるということですが、いかがでしょうか。

これ、前年度と比べて増えているの。

【伊佐地委員】 ここに書いてないもので分らない。

【豊田委員長】 書いてないもので、分らないんですよ。だから、評価委員会委員としては何とも言いようがないというか。

【山田（桑名市総合医療センター病院長）】 具体的なちょっと数字は上げられませんが、医師数が増加しているのは間違いありません。

【豊田委員長】 増加している。

【山田（桑名市総合医療センター病院長）】 はい。不足していた診療科なんかかなり充足してきていますし、新たに、ここに書きましたけど、血液内科だとか精神科だというところは、常勤の医師が増えておりますので、前年度、今回は、数字を上げさせていたかないとあかんのですけれども。現実的には、実感としては、間違いなく増えている。

【豊田委員長】 じゃ、数値を確認していただいて、増えているということであれば、4点と、増えていなければ3点ということにさせていただいてよろしいでしょうか。

【山田（桑名市総合医療センター病院長）】 あとは、当院は400床なんですけれども、県内の同程度の病院と比べましても、この108という医師数は多いほうなんだというふうに思いますね。

【豊田委員長】 中期目標期間の業務実績報告書9ページ。医師数の推移が書かれておりまして、ほぼ順調に増加はしておりまして、令和5年度は4年度よりも増加していますね。

そういうことで4点ということでもいいかと思います。

そうですね、だから、こっちの中期目標期間5年間のデータに書かれているのもありますので、両方を見て判断していただくのもいいかと思います。

研修医の受入れにつきましても、いかがでしょうか。

計画値については、初期研修医が計画どおり、専攻医は20人という計画が17人になっているのですが、研修医のマッチング数は昨年度の12人よりも2人増えているということで、恐らく自己評価4点にされたということだろうと思いますが。

【山田（桑名市総合医療センター病院長）】 なかなか専攻医として、初期研修が終わった後、よその県だとか、よその病院に移ってしまう先生が多かったんですけれども、専攻医も年を追うにつれ、MMCのカリキュラムに乗って大学のほうへ研修に行くようにと引き上げられた事業で、この専攻医の数なんかもだんだん減っていくところが、去年も3名残っていただきましたし、維持できているということも1つ評価いただければというふうに考えておりますけれども。

【豊田委員長】 研修医の5年間のデータにつきましては、10ページに書かれておりまして、長い目で見れば、5年間通して見れば、専攻医も増えておりますし、研修医も増えているということが分かりますね。

ですので、4点でいいのではないかという気がしますが、よろしいでしょうか。

では、4点とさせていただきます。

次が、看護師の確保及び定着ですね。

これも単年度では、前年度実績が書かれていないのですが、この5年間のデータを見ますと書かれておりまして、11ページですね。

徐々に増えているといいますか、きっちりと確保しておられると。

それから、離職率のデータも12ページに書かれております。

ちょっと年度によってかなり変動があるわけですが、令和元年度から行きますと、8.6、8.9、9.1とちょっと増えてきましたが、令和4年度はかなり減って、令和5年度は、令和4年度よりかは高いのですが、その以前の3年間に比べると、かなり減っているというデータでございます。

ということで、看護師さんのほう、4点という自己評価ですが、よろしいですか。

【玉井委員】 いいですか。

【豊田委員長】 どうぞ。

【玉井委員】 通常、一般の病院としての離職率というのは、大体、どれぐらいなのでしょうね。

【伊佐地委員】 10%以上あります。大学病院はもっとすごいですよ。

【玉井委員】 そうですか。そうすると、もう、かなりいい値。

【豊田委員長】 非常にいいと思います。

【伊佐地委員】 大学病院ですと、大体60人入って、次の年、60人辞めています。

【豊田委員長】 では、今までの項目では自己評価どおりというふうにさせていただきます。

では、次へお願いします。

【梅山（保健医療課課長）】 ありがとうございます。

それでは、15ページをお願いいたします。

中項目の3、患者サービスの一層の向上について、順次、御説明いたします。

まず、小項目（1）診療待ち時間等の改善です。

外来患者の逆紹介率を推進したほか、外来診療後に会計待ちをせずに帰宅できる医療費後払い専用窓口を設置し、外来での待ち時間の短縮を図りました。

外来患者の院内滞在時間につきましては、平均外来患者数が、前年度830.5人から、今年度873.8人と、43.3人の増加や、化学療法患者の割合も増加したため滞在時間

は増加しました。

以上のことから、年度計画を十分に実施できていないとし、法人の自己評価は2となっております。

次に、小項目（2）院内環境の改善です。

入院支援センターでは、個人情報保護に留意した説明ブースを設置し、予定入院患者や家族に対し説明対応を行い、不安なく入院できるように努めました。また、コロナ5類化後も感染対策や体温チェックを継続しました。

以上のことから、年度計画を順調に実施しているとし、法人の自己評価は3となっております。

17ページをお願いいたします。

小項目（3）職員の接遇の向上です。

意見に対する回答の院内掲示や患者満足度調査によるサービス向上、受付職員への接遇研修を実施しました。

以上のことから、年度計画を順調に実施しているとし、法人の自己評価は3となっております。

ここまでが中項目の3になります。

よろしくお願いいたします。

【豊田委員長】 中項目、患者サービスの一層の向上ということで、まず、15ページの診療待ち時間等の改善、これが自己評価では2となっておるということでございます。

そこに、5年間の院内滞在時間が書かれているわけですが、これ、受付から会計終了まで、院内に患者さんがおられた時間ということですが、この指標を使った場合は、5年前とほとんど改善していないというか、5年前より悪くなっているということで、2点にされたのかなというふうに思いますが、いかがでしょうか。

【山田（桑名市総合医療センター病院長）】 先ほどありましたけど、後払いサービスの普及率も低いですし、今後、ちょっと増やしていくことによって、また、待ち時間を減らしていくことは考えていますが、がんの患者さん、特に外来ケモの患者さんが増えていきますので、そのケモのレジメンによっては、場合によっては5時間とか滞在する患者さんもありますので、そういったものも影響しているとはいえ、元年と比べて頑張って短縮しようという活動をしているにもかかわらず、短縮できていないということで、2という評価をつけさせていただきました。

【豊田委員長】 ただ、これ、先ほど山田院長がおっしゃった外来のがん化学療法で、外来に4時間、5時間、治療をして、お帰りになる人まで含まれているので、それは、待ち時間というよりも、実際に治療している時間になりますので、本来はそういう患者さんは除いて計算しないといけないわけですね。

なので、その辺、どうなんですか、技術的にそういうことが可能なのか、難しいのか。

【伊佐地委員】 これ、だから、外来待ち時間で出すのは、難しいんじゃないですか。

だから、僕は、2じゃなくて3でいいかなと思ったんですけどもね。

患者さんが増えてきたら、当然、滞在期間は長くなりますよ。患者さん、えらい時間がかかるし、そうじゃなくて、受診の予定時間までにどれだけかかったかとか。

【豊田委員長】 評価方法を変えないと。

その診察とか、実診療の時間を除いた時間でやっておらんとね。

【伊佐地委員】 滞在時間は当然、そうですね。その辺り、なかなか計算が難しい。

【森下委員】 私も定期的にお邪魔しているんですけど、採血にしても、いろんなものを結構速くやられているなというイメージはありました。

ただ、もう一点、もともとのここに書いてある中期目標の中に、満足度を定期的に把握・分析すると書いてあるので、このところ、具体的にどういった手法を取ってみえるのか。

例えば、今おっしゃられた滞在時間だけのことで言うと、私は自分の感覚的に、検尿にしても採血にしても、随分早い時間から開けてもらってやってもらっているし、自分の診療に行ったときに、もう速報値、入っていますので、随分速くやってもらっているんだなという感じ、自分で思っているんですよ。

ただ、患者が見たときにどうかというのを見る場合に、物差しがないので、例えば、意見箱に出されている意見とかホームページ上に出ている意見の件数なんかが、増えているのか、減っているのか、そこに出てきている意見はどういうものが多いのか。

【山田（桑名市総合医療センター病院長）】 去年、病院機能評価を受けたときに、その意見箱の数があまりにも少ないから増やせと言われて、ものすごく増やしたんですよ。そういうのも影響しているのか、件数自体は増えていますし、それから、定期的に患者満足度アンケート調査というのを行ってまして、それを経年的にどういうふうに変化しているかというの、追っております。

【森下委員】 その辺りが、普通に横ばいの的なものであれば、私は、これ、本当に、伊

佐地先生がおっしゃられたように、3でもいいのかなというふうに。

【豊田委員長】 例えば待ち時間についての満足度調査というのはしておられますか。

【山田（桑名市総合医療センター病院長）】 しております。

【豊田委員長】 その変化はどうなっていますか、あまり変わらないのか、よくなっているのか、悪くなっているのか。

【山田（桑名市総合医療センター病院長）】 やっぱ一部、全体の割合にすると、ものすごく待たされるという割合はすごく少ないんですけど、やっぱり一定の割合は、必ず経年的に見ても、おられますので、やっぱり完全に解消までは至っていない。

【伊佐地委員】 患者さんにもよりますよね。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 短い人だと何もおっしゃらないですが、長い人だけが言われますので、数だけで言うと、長い人の苦情は結構あるということに。

【豊田委員長】 森下委員の実感からはよくなっているんじゃないかという。

じゃ、3点。

【伊佐地委員】 僕はそれでいいんじゃないのと。

【豊田委員長】 3点に引き上げるということによろしいですか。

これ、変更した場合は、理由を書かないといけないので。

【森下委員】 委員の実感と書いてください。

【伊佐地委員】 自分がかかってみると分かりますよ。僕も大学病院に定期的にかかっている。そんなに待たないですけど。

【豊田委員長】 ですので、外来化学療法の患者が増えているというのは、これは事実ですよ、これは数字として、この5年間で増えておりますので、その点を勘案し、また、委員の皆さんの実感としてよくなっているのではないかという御意見があったということで、その2つで、2点ではなくて3点に格上げさせていただくということですかね。

ありがとうございます。

それから、次が、院内環境の改善ですかね。

これも数値が書かれていないので、はっきりと分からない面もあるのですが、一応、3点ということになっております。

入院支援センターは、5,516人の入院予定患者の説明を行ったなど、これ、3点によろしいですかね。いいと思います。

それでは、次が、職員の接遇の向上ということで、接遇向上のための研修など実施され

たと、予定どおり実施したということですよね。ということで、計画どおりそういった研修を実施したということで3点になっていると思うんですが、先ほど委員から御質問が出たように、その結果、満足度はどうなっているんだというのが大事だという御意見がございまして、評価点は3点でいいんですけど、先ほどの満足度調査についてもどこかに記載がありましたね。

評価委員会としては、ぜひ、今回、非常に目安箱等々増やされて、患者さんのアンケートの数を増やされたというのは、これは非常に評価できると思うので、今後、ぜひその満足度調査を活用して、より患者サービスの一層の向上に御尽力いただきたいと、そんなコメントになろうかと思います。

では、そういうことで、この中項目につきましては、2点のところを3点に格上げさせていただくということで、あとは自己評価どおりということにさせていただきます。

では、次の中項目、お願いします。

【梅山（保健医療課課長）】 ありがとうございます。

それでは、17ページの下段からでございます。

中項目の4、より安心して信頼できる質の高い医療の提供について、順次、御説明いたします。

まず、小項目（1）医療安全対策の徹底です。

医療安全管理マニュアル、医薬品安全管理マニュアル、医療機器安全管理マニュアル等の改訂を行いました。

また、昨年度に患者誤認のインシデントレポートが多かったため、医療安全チームによる病院内ラウンドや研修会での患者確認の方法を周知いたしました。

そのほか、院内感染防止に関する知識、技術向上や新興感染症を含む感染制御の機能強化、地域連携の強化を図りました。

以上のことから、年度計画を上回って実施しているとし、法人の自己評価も4となっております。

19ページ、下段からになります。

小項目（2）信頼される医療の提供では、患者、家族への十分な説明による治療への同意の徹底、適切な診療情報開示に努めました。また、セカンドオピニオンやヒヤリ・ハット件数の公開を行っております。

以上のことから、年度計画を順調に実施しているとし、法人の自己評価は3となっております。

ります。

20ページの下段からでございます。

小項目の（3）施設設備の整備及び更新です。

おもいやり駐車場の増設や、病院玄関までの連絡通路の設置、病棟病室内の照明設備やカーテンの更新など、環境整備を実施しました。

以上のことから、年度計画を順調に実施しているとし、法人の自己評価は3となっております。

21ページをお願いいたします。

小項目（4）市民への保健医療情報の発信及び普及啓発等です。

市民公開講座の開催、医療センターNEWSの発行、桑名市広報への記事掲載、小中学校でのがん教育、地域でのがん予防啓発活動など継続的な啓発に努めております。

また、がん相談支援センターの周知として、地域住民に向けた「みんなのがん教室」を長島輪中図書館で開催いたしました。

以上のことから、年度計画を上回って実施しているとし、法人の自己評価は4となっております。

以上が中項目4の説明となります。よろしくお願いいたします。

【豊田委員長】 中項目4ということで、より安心して信頼できる質の高い医療の提供ということで、17ページから始まりますが、まず、医療安全対策の徹底ということで、18ページですね。

インシデントレポートの件数が書かれております。

自己評価は4点ということですが、いかがでしょうか。

これ、インシデントレポートの5というのが、死亡事故だったっけ。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 そうですね。

【豊田委員長】 では、今回、死亡事故ゼロということで。

この前のときは、死亡事故があったので、自己評価を1つ下げさせていただいたということがあったんですけど、今回はゼロということでございます。

5年間についてのインシデントレポートのデータが13ページに載っております。

令和4年は、死亡事故が4件あったので、このときは低い点数をつけさせていただいたわけです。今回はゼロということであります。

対策は、やるべきことをしっかりやっているとしたいと思います。

いかがでしょうか、4で、よろしいですか。4点とさせていただきます。

次が19ページの下、インフォームド・コンセントですね。

次、20ページにデータが載っておりまして、セカンドオピニオンの紹介件数とかが書かれております。

これ、一応、計画どおりということで、3点となっております。

これも特に問題ないと思いますので、3点ということでさせていただきます。

次が、施設設備の整備及び更新ということで、20ページから21ページ、おもいやり駐車場の増設で、2台分増やしていただいたということですよね。

そのほかLED化ですかね。遮光カーテン等、これは計画どおりに進んでいるということで3点ということですが、これも、よろしいですね、3点。

次が、市民への保健医療情報の発信及び普及啓発等ということで、市民公開講座をはじめ様々な発信をしておられます。

しっかりやっけていただいているのですが、これ、前年に比べて新たにやったことってあったっけ、どうぞ。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 コロナで公開講座、止まっていたので、再開させていただきました。

【白石（桑名市総合医療センター副理事長）】 あと⑧にあるがん相談支援センター周知、共同の事業をして、これに参画した全部で5か所ぐらいの地域があったのですが、それもウェブで発表会のようなものがあつたんですけど、そこでも長島輪中図書館とのコラボレーションについては、高い評価は得られているようです。

【豊田委員長】 そういうことで、コロナが明けて、しっかりやっけていただいていると思います。

4点でよろしいでしょうか。

これも4点とさせていただきます。

では、次、説明、お願いします。

【梅山（保健医療課課長）】 ありがとうございます。

では、大項目の第2、業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置について、中項目ごとに、順に御説明いたします。

22、23ページをお願いいたします。

中項目の1、適切かつ弾力的な人員配置につきましては、常勤嘱託や短時間勤務を取り

入れ、効率的な業務運営を図っています。

検査室業務拡大に向けた検査技師4名の採用、これまで苦慮していた薬剤師の人材確保について、3名確保できました。

しかし、外来クラークの人材確保には苦慮しているところです。

以上のことから、年度計画を順調に実施しているものとし、法人の自己評価は3となっております。

23、24ページをお願いいたします。

中項目の2、職員の職務能力の向上です。

人事評価制度の対象を医師にも広げ、職員の業績や能力を反映した人事及び昇任管理に努めております。

看護部では、クリニカルラダーにより人材育成を継続しています。

専門看護師、認定看護師の人数につきましては、表のとおりとなっております。

以上のことから、年度計画を順調に実施しているものとし、法人の自己評価は3となっております。

24、25ページをお願いいたします。

中項目の3、職員の就労環境の整備です。

働き方改革関連法等の施行により、有給休暇の確実な取得や時間外労働時間の削減に取り組んでおります。

有給休暇2日以上取得率は98.3%、介護休暇の取得者は19人、男性育児休業取得者は9人でした。また、職員1人当たりの時間外労働時間は9.7時間で、前年度比5.1%の減になりました。

以上のことから、年度計画を上回って実施しているとし、法人の自己評価は4となっております。

25、26ページをお願いいたします。

中項目4、効率的な業務体制の推進と改善について、院内ホームページで、病院経営に係る課題や、病院経営に係る様々な情報の掲載を行っております。

また、三重大学・桑名市と締結した「新しい未来の共創に関する協定」に基づき、AIを活用した画像診断支援や、電子処方箋の運用準備など、医療DX化に向けた取組みを継続して行っております。

そのほか、病院機能評価の認定を受けました。

以上のことから、年度計画を上回って実施しているとし、法人の自己評価は4となっております。

26ページをお願いいたします。

中項目の5、収入の確保につきましては、医業収益は128億5,300万円となり、前年度から増加しております。

また、新入院患者数が、新病院開院後、初めて、1万人を超えました。

病床稼働率は、計画値には至らなかったですが、前年度から増加しております。1人1日当たりの入院収益は前年度を下回り、計画値の未達となっておりますが、7万円台を維持し、医業収益の増加につながっております。

以上のことから、総合的に見て、計画を上回って実施しているとし、法人の自己評価は4となっております。

26、27ページをお願いいたします。

中項目の6、支出の節減につきまして、営業費用は143億3,100万円となり、前年度及び予算計画を超過しています。

特に薬品費について、外来化学療法の数が増加し、抗がん剤の使用が増え、前年度を超過しておりますが、対医業収益比率は税込み前14.8%、税込みで16.3%と、おおむね計画値のとおりとなっております。

後発医薬品使用率は、数量ベースで90%以上となり、計画値を達成しております。

給与費については、前年度より増加しており、対医業収益比率については、医業収益が増加したことから、55.6%と前年度を下回ったが、計画値には至っておりません。

以上のことから、年度計画を順調に実施しているとし、法人の自己評価は3となっております。

以上が、大項目2の報告でございます。

よろしくお願いいたします。

【豊田委員長】 では、大項目、業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置ということで、御検討いただきます。

まずは、22ページ、適切かつ弾力的な人員配置、23ページに書かれておりまして、自己評価は3になっております。

薬剤師を確保されたというのは、本当によかったと思います。今、多くの病院で薬剤師不足で困っておりまして、大変よかったと。

外来クラークというのは、僕もちょっと詳しくはないのですが、これは。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 医者について補助する。

【豊田委員長】 それは、分かっているんですけど、こういう人材がどのように育成されて、どういうところから確保、どういうルートで確保するかというところが僕もちょっとよく分かっていないんです。

その病院独自でこういうクラークを養成するということもしておられるんですか、そういうことはないのかな。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 実際に、この分野、正規の職員を3人ぐらいしか置いていなくて、あとは、もう非正規と派遣ばかりなんですね。もう少し正規を増やして、しっかりした組織をつくっていきたいなと思っているんですけど、なかなかやっぱり入職してこないという事情もありますし、何年か採用していなかった期間がありましたので、そういのもあって、全然、事務が足りない。

あわせて、今、事務員が採れないという状況で、昨年度、入ったのは1名なんです、事務員を正規募集して。6人ぐらい辞退されました、大学卒は。

なので、今年は、来年度採用は、大卒をあまり採らずに、専門学校卒、高卒を少し採ろうかと思っているんですが、そういった人が少し増えてこないと、なかなか正規でクラークへ持っていけない。やっぱり非正規の方が多いので、ちょっと厳しい患者さんとか、先生に当たるとすぐに辞めちゃうというのがありまして、なかなか安定して確保できないというのが現状です。

【豊田委員長】 クラーク、かなりの専門的知識も必要ですし、また、気難しいドクターと上手にやっていけないといけないので、非常に高度な能力を、そういうコミュニケーション能力も必要だと思うし、非常に貴重な人材だと思うんですけど。

皆さん、いかがでしょうか。3点ということになっておりますが、よろしいですかね。薬剤師を確保されたということは本当によかったと思います。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 全然足りていないんです。

【豊田委員長】 足りていない。

それから、次が、職員の職務能力の向上ということで、23ページ、24ページで、特に看護師さんの、専門看護師や認定看護師、ここに載っている人数は新たにこれを取られた方の人数ですか。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 これはキャリアを持っている人の人数です。

【豊田委員長】 ということですね。新たというわけでもなくて、新たな人も混じっているかもしれないけれども、それも含めて。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 はい。

【豊田委員長】 じゃ、これにつきましても、計画どおりということで、3点ということで、いかがでしょうか。よろしいですね、これは3点でね。

その次が、24ページの下、職員の就労環境の整備について、働き方改革との関連ですね。これは4ということになっております。

医師の働き方改革、大変困難なところもあるのですが、また、そのほかの医療従事者の働き方改革についてもあれですが、4点、自己評価、非常にすばらしいと思うんですが、医師については、どうですか、山田先生、医師の働き方改革。

【山田（桑名市総合医療センター病院長）】 なかなか有給休暇5日、取ってくれる医師が少なかったんですけど、かなり強気に働きかけて、しっかり休みなさいということで、上長からも、しっかり消化できていないような医師に関しては、上長に伝えて、計画的に取るようにという試みをかなり強行に行ってきた98.3%ですから、かなり高率に、しっかりと休みを取って、体を休めるというのができていますし、タスクシェアとかタスクシフトは、ほかの職種の方がかなり協力的に取り組んでくれていますので、かなり、それに関しても、進めることができていかなというふうに考えております。

あと、最近、男性の育休が、もう当然のごとく取ってくるので、それも駄目というわけにいかないんで、全て受け入れて、残された人間でカバーするという形を、今、取っております。

【豊田委員長】 ありがとうございます。

その実現のためには、もちろん、先ほども出てきました、医師の数も増えていないとそういうこともなかなか実現が難しいですし、また、経営との両立ということがありますよね。なかなか難しいことですが、この辺は病院長先生の御手腕によるかと思います。

ということで、4点、すごくよくやっておられるので4点でいいかと思いますが、よろしいですか。

その次が25ページの下で、効率的な業務体制の推進と改善ですかね。

ホームページ、それから病院の業績に顕著な功績があった職員への病院貢献賞、業務改善などですね。これも4点となっております。

A Iを活用した画像診断支援等も書かれております。やっぱり三重大さんと桑名市さ

んとの協定ですかね。

この業務改善、16件の応募があつて、院内で選考した上位入賞者を表彰したということで、これも民間の企業さんでは、結構、業務改善とか、改善活動、QC活動とかやっているんですが、病院では比較的少ないかもしれないのですが、これ、やっておられるのは非常に素晴らしいというふうに思いますね。

御意見いかがでしょうか。

【伊佐地委員】 これも、具体的な人数とかは、書いていただけないんでしょうかね。

【豊田委員長】 人数というのは。

【伊佐地委員】 病院貢献賞、何人いるとか。

【豊田委員長】 貢献賞。16件の中から何人か選んだんでしょう。

【山田（桑名市総合医療センター病院長）】 上位3人は、賞金も多くなっていて、あとは、上位10名に一定の入賞と。

【豊田委員長】 全部で13人、表彰したんですね。

【伊佐地委員】 そういう具体的な数字があるといいかなと思いました。

【豊田委員長】 改善活動をやるときは、できるだけ浅く広く表彰するというのが1つのテクニックになっておりますね。一部だけ表彰してもなかなか皆さんのやる気が起こらないのでいいと思います。

【山田（桑名市総合医療センター病院長）】 あとは、これ、ポスターで貼りますので、職員みんなが目にするので、私たちの知らないところでこんな頑張っているチームがあるんだなということで触発されて、全体的に病院を良くするという底上げ運動にもつながらないかなということでやっております。

【豊田委員長】 非常に素晴らしいと思いますね。

4点でよろしいですか、4点とさせていただきます。

次、26ページからは、まず、収入の確保ということですかね。

医業収益を増やしていただいて、また、新型コロナの件があつたんですが、患者数も増えて、入院収益も増えて、病床稼働率も増えております。計画値よりかは下回っているかもしれませんが病床稼働率も順調に増えているという状況で、4点という自己評価ですが、いかがでしょうか。

その辺は、永藤さんの御専門なんですが、また、でも財務はまた、後で、次のときにやるのかな。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 例年、ここでやらないですよ。財務も一緒にやりますから。

【豊田委員長】 そうか、そうか、ちょっと進んじゃっている。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 先ほど説明してくれましたけど、いつもこの手前で切っていただいて、財務と一緒に、これ、やるようにしているんだと思うんですよ。

【豊田委員長】 でも、ちょっとやりかけたのでやっちゃいましょう。

これ、収入につきましては、順調に伸びているということで、ただ、一番最初に説明がありましたように、財務会計上は、損益計算書の上では赤字決算であると、しかし、現金はちゃんと確保はしておられて、現金は余剰金があるんですよ。

ただ、減価償却費と借金の返済とのずれでそういうことになっているというふうに理解はしているんですが。

【伊佐地委員】 質問、1 個いいですか。

【豊田委員長】 どうぞ。

【伊佐地委員】 この一番初めに 2 ページで説明していただいたんですけど、先ほど先生のおっしゃられたように、赤字が 2 億 1,600 万、赤字決算やけれども、予算計画は上回ったということは、予算計画ではもっと赤字を想定しておったというふうなことなんですか。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 病院を建てたときに、今 6 年、7 年経っていますので、減価償却が 13 億ぐらいありますので、それを減価償却後で見ると、2 億 1,600 万の赤字になります。もう少し 5 億ぐらい減るかなと思っていたんですけど、前年が、確か 5 億近い赤字だったかと記憶しているんですが、前年は 2 億 1,500 万の黒字だったんですね。コロナの補助金が入ってきましたので、それがもう全てなくなりましたので、もう少し赤字が出るかと思っていたんですが、割と 2 億ぐらいで収まったというのが現状です。

【伊佐地委員】 ありがとうございます。みんな、どこの病院も赤字ですね。減価償却を入れちゃうと。

【豊田委員長】 現金は余っているんですけど、減価償却を入れると赤字になると、よくあることで、要するに、借金はちゃんと返しているんです。借金を返して、まだ、現金は余っているんですけど、要するに、借金を返すペースと減価償却費は費用に計上されま

すので、それが急激に上がってくると、借金返却以上に上がってくると赤字決算になっちゃうと、しかし、現金は余っているとそういう状況だと思います。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 現金自体、あんまり余ってなくて。

借入金を、長期借入れは、うちができないものですから、市のほうに借金を返していくのですが、短期借入金の前年度末で9億ありまして、それを前年度末、一昨年度末に9億あったものを前年度末で5億まで減らしましたので、実際、4億借金を返したと、別途、4億、借金、返していますので、実は、手元に現金をあまり残していないんです。

もうちょっと、ゼロにするまで頑張らないといけないので、あと数年で返せるかと思っています。

【豊田委員長】 その辺は、また、次回、また議論をさせていただくとして、収入については、これ、結構頑張っていたいただいて増やしてもらっているんで、4という自己評価になっておりまして、いいのかなとも思うんですが、また、次回の議論で最終的に決めさせてもらいましょうかね。4か3かというのをですね。

次の支出が27ページで、これは3になっているということで、支出で薬品費の対医業収益比率は計画値より下げ止まっていますよね、診療材料費も。

だから、これ、いいわけですね、非常にね。支出もかなり頑張ってもらっているのかなと、計画値を上回ってですね。下回ってというのか、薬品あるいは材料費もコントロールしておられるということだと思いますね。

ただ、給与費は増えていると、若干ね。これ、しかし、給与費は、全国的な政府の指示で、給与アップはしないといけないということがありますが、そういう職員の給与アップというのはされたんですか。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 前年の2%増えたので、しました。

【豊田委員長】 ベースアップした。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 定昇と合わせて4%上げましたので、ちょっとその影響が、この55.6と出ていることになります。

【豊田委員長】 それはだから、経営の仕方が悪かったというよりも、人件費をとにかく、日本中上げないという政治的な状況というのは、行政の要請がありますので、この人件費のアップはやむを得ないのかなと、ただ欲を言うと、人件費をアップしてなおかつもっともっと収益が上がっていれば一番いいわけですが、なかなか公定価格でありますので、難しい面もあるということだと思いますね。

そうしましたら、一応、この３点、支出が３点でしたかね。その次、２８ページはまだやっていなかった。

【梅山（保健医療課課長）】 また、次回。

【豊田委員長】 また、来週。

じゃ、そろそろ時間が来ておりますので、もう３時になりましたので、今日はこの辺りで終わらせていただきまして。

経営のところは難しいので、かなり議論があるかも分かりませんし、永藤さんとか、それから商工会議所の森下さんから、ぜひ、おっしゃっていただいて、また医師会の先生からも何か経営についてコメントいただけるとありがたいなと思います。

【梅山（保健医療課課長）】 １点だけ確認をさせてください。

本日、法人の自己評価と委員の自己評価の異なるところが１点ございました。

ページとしましては、１５ページのところで、患者サービスの一層の向上のうち、診療待ち時間等の改善につきまして、法人のほうでは２というところが、委員会のほうで３という形となりました。

そのコメントとしましては、患者数の増加や外来がん患者など、治療の時間のかかる患者が増加しているのに関わらず、滞在時間については伸びているものではない、また、委員の方々の実感から改善は感じられるため、２から３になったというところでどうでしょうか。

【豊田委員長】 どうでしょうか、この説明でよろしいでしょうかね。

それで結構です。

【梅山（保健医療課課長）】 ありがとうございます。

【豊田委員長】 以上ですかね。

長時間にわたって活発な御質問、御意見、討論ありがとうございました。

では、次回もよろしくお願いいたします。どうもありがとうございました。

— 了 —